

公的医療機関等 2025 プランについて（地域医療構想関係部分抜粋）

独立行政法人労働者健康安全機構中部労災病院
<p>【地域において今後担うべき役割】（P7）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 港区に所在する唯一の公的病院及び地域医療支援病院として診療機能の維持・充実を図りつつ、引き続き、以下のとおり地域の急性期・高度急性期を中心とした医療を担っていく。 <ul style="list-style-type: none"> i 愛知県保健医療計画において役割を担っている、がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病などの疾患について、地域の中核的医療機関としての役割 特に愛知県がん診療拠点病院として全ステージのがん診療に係る集学的医療の提供 ii 地域の二次救急指定病院として救急医療の実践、救急搬送患者の積極的受け入れ iii 地域医療機関からのスムーズな紹介患者の受け入れ、急性期治療を終えた患者の逆紹介のほか、地域医療機関及び在宅を担う医療者へ向けた合同の症例検討会・講習会の開催、高額医療機器等の共同利用 iv 災害拠点病院として大規模災害における診療受け入れ、DMAT の派遣 ○ 法人として、がん、糖尿病、脳卒中（リハ）、メンタルヘルスの4分野について、治療と就労の両立支援の実践に取り組んでおり、蓄積されたノウハウを地域へ還元できるよう取り組む。
<p>【今後持つべき病床機能】（P7）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 高度急性期医療を提供する10床（特定集中治療室）については、当院が対応する患者のうち、重症患者の加療には欠かせない病床となっており、引き続き機能を維持する。 ○ 急性期医療を提供する546床については、地域の医療情勢の動向と当院の診療機能及び疾患（患者）構成を踏まえて病床機能の見直しを図り、496床へ再編し、地域における急性期医療の中核的な役割を推進していくこととする。 ○ 今後、高齢化が進むにあたり、地域シェア14.4%（年間症例数：1,378例）を有している整形外科において、特に強みである脊椎疾患や股関節疾患を中心に、その特性を生かした急性期機能の充実を図る。 ○ 回復期リハビリテーション病床を50床設置する。 ○ 上記病床機能を円滑に運用して地域医療連携を推進するために、入退院支援（PFM）部門を強化し、前方連携・後方連携を推進していく。

【今後の方針】（P8）

	現在 （平成29年度病床機能報告）		将来 （2025年度）
高度急性期	10床	→	10床
急性期	546床		496床
回復期	0床		50床
慢性期	0床		0床
（合計）	556床		556床

【その他の数値目標】（P9）

医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率：85%以上
- ・ 手術件数：9,000件以上
- ・ 紹介率：50%以上
- ・ 逆紹介率：70%以上

経営に関する項目

- ・ 人件費率：54%以内
- ・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合：0.25%